

笑顔を検知して除菌液が噴霧—笑顔づくりと社会課題解決の両立を目指す社会装置事業

学問の神様「湯島天神」として全国的に有名な湯島神社。その至近にある瀟洒な建物の一角にあるマイネム株式会社を訪問した。

代表取締役の末吉隆彦氏は、ソニー株式会社、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所でトータル 15 年間勤務していた。その後、2007 年にクウジツ株式会社を設立した。この社名には「空」と「実」の架け橋になるという思いが込められている。



マイネム株式会社 代表取締役 末吉隆彦氏

そして 2018 年 5 月にはマイネム株式会社を設立、さらには 2021 年 4 月に一般社団法人エミーバンク協会設立と展開していった。

末吉社長は「社会装置事業」を標榜し、「emmyWash (エミーウオッシュ)」という製品を開発した。社会装置事業とは、社会・公共の課題・コストを資本財に変換していく「コスト (Cost) から資本 (Capital) へ」というコンセプトのもと、笑顔づくりと社会課題解決の両立

を目指す事業のことである。

emmyWash に取り付けられた鏡に笑顔向けると、それを感知して除菌液が噴霧される。手指を除菌するたびに笑顔がカウントされ、感謝の「エミー (emmy)」が貯金される。笑顔 1 回が 1emmy (0.5 円) に換算され、社会が笑顔になるための支援や感染症予防のために活用されるという仕組みである。今回は末吉社長に、なぜそのような社会装置事業に携わるようになったのかについてお話を伺った。



笑顔を感じて除菌液が噴霧される「emmyWash」

笑顔に意味を与えたいと考えていた時に出会った前野隆司教授

最初に創業し、現在も経営しているクウジットでは、笑顔の認識技術やアプリケーションを作っていた。例えば大手化粧品メーカーと笑顔の練習アプリを作ったり、笑顔のゲームを作ったりなどである。

「ただし広告やイベントなどの一過性の仕事が多く、笑顔や幸せを語るには少々薄っぺらいというか、消費されている感じがしたのです。2011 年の東日本大震災後に、笑顔に意味を与えたい、笑顔にはもっと力があるはずだと思いました。」と末吉社長は語る。

ちょうどそう考えていた時期に、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（以下慶應SDM）の前野隆司教授との出会いがあった。

「i. school」（東京大学で始まったイノベーション教育プログラム）の360度パノラマカメラを用いたワークショップ記録システム「ハピネスカウンター for ワークショップ」をi. school とクウジツが共同開発した。i. school のワークショップ中に議論が行われるテーブルごとの映像を記録し、俯瞰的に振り返ることができ、東京大学知の構造化センター（自然言語処理、人工知能、Web工学の最先端技術を活用して、大量の情報を構造化することで、知の全体像を把握する機関）におけるアイデア創出と笑顔などの表情やコミュニケーションとの相関についての研究に利用できるというものだった。

2015年3月17日に九州大学で開催された、イノベーション教育学会のポスターセッションにおいて、「ハピネスカウンター for ワークショップ」を共同開発した3者とともに、末吉社長が研究発表をした。会場には前野教授がいて、i. school の関係者から「あれが幸せで有名な前野先生だよ。」と教えてもらった。

当時、末吉社長は幸福学についての知見はほとんど無かった。ポジティブサイコロジー（幸福感や感謝等のポジティブな感情やウェルビーイング、強みや美徳などの人間のプラスの特性を科学的に研究する学問）についても全く知らず、前野教授については、ロボット工学者や触覚研究者としての名前は知っていた。ところが「幸せで有名」であるとは知らなかったのである。

学会から帰って早速前野教授の著書を読んだ。その時に幸福学を真っ向からアカデミックに研究する学問があって、工学出身の前野教授が日本での研究の第一人者だと言われていることを初めて知った。

その後、SNSで前野教授とコンタクトを取り「一緒に共同研究をしませんか」とアプローチをした。

末吉社長は「前野教授は快く面談に応じてくれて、意気投合しました。僕はテクノロジー出身なので、その時はIoTと幸せを掛け合わせてできることを、という話になりました。やがて慶應SDMで研究員にさせて頂き、前野教授のヒューマンラボで、『笑顔計測という技術がありますが、一緒にやりたい方はいませんか』というプレゼンテーションをさせて頂きました。その時、何人か手を挙げて頂きました。その中の一人に、のちにエミーバンク協会の理事兼最幸顧問・保井俊之先生（叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部長・教授、慶

應 SDM 特別招聘教授) もいらっしやいました。」と語る。

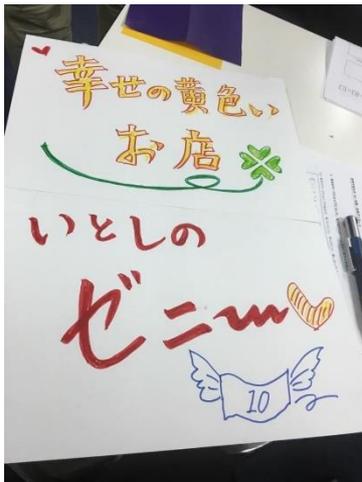
「エミーとゼニー」のワークショップを社会実装へ

当時、保井教授は地域通貨や子供向けにお金のワークショップなども研究の一端として取り組んでいた。末吉社長がテクノロジー系で取り組んできた笑顔の話をしたら、保井教授は利益最大化の資本主義のお金の使い方や貨幣感を「ゼニー (zenny)」、もともと古代からある地域価値としてのお金、人の信頼価値のお金を「エミー (emmy)」と名付けて対比し、前野教授とともに共同研究をしようという展開になった。そしてゲーム型ワークショップ「エミーとゼニー」を開発したのである。

実はこのワークショップには筆者も 2016 年に参加した。それは「お寺でおカネ」ワークショップとして増上寺（東京都港区芝公園：浄土宗の仏教寺院）で開催されたものである。



2016 年 5 月 5 日に増上寺で開催された「お寺でおカネ」ワークショップ



増上寺で開催されたワークショップ風景。筆者も参加した(写真中央)

ワークショップは2つのグループセッションからなり、それぞれ「もうけの極大化（ゼニー）」と「ありがとうの極大化（エミー）」を目的としてお店を運営するというものだ。その中で芽生えた価値観と行動の変化を参加者が体験し、それを踏まえた上で浅草緑泉寺の青江覚峰氏と前野教授、保井教授を交えた座談会「エミーとゼニー」も同時開催された。

このワークショップは各地で開催され、末吉社長が次に歩を進める転機ともなった。

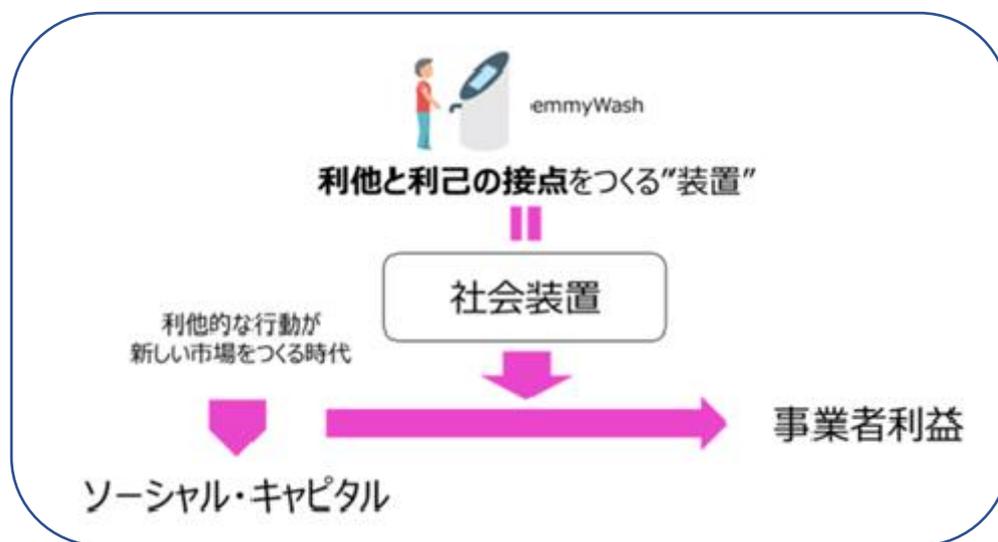
「僕は実践的な事業を作るのが好きなので、ワークショップで行なったエミーとゼニーの考え方を社会実装したいと思いました。クウジットはテクノロジーの会社です。社会実装に必要なのは、マーケティングだったり普及活動なので、それは僕一人ではできません。いろいろと模索していましたが、のちにマイネム共同経営者として一緒に活動する平野治さんと知り合いました。平野さんはエミーとゼニーのワークショップに参加して頂いていたんです。」と語る末吉社長。

平野氏は10数年前に健康経営を提唱し、NPO 法人健康経営研究会の副理事長を務める。健康経営とは、将来に向けて企業の価値、経営者、管理監督者、働く人の健康価値を高めることを目標とした活動のことだ。

以来、5年にわたって末吉社長と平野氏は、社会実装するためにはどうすべきかという対話を繰り返してきた。社会価値を高くすることと、自社利益を増大させることのバランスはどうあるべきか。平野氏は「社会装置」という造語を創り、事業化を提案した。

「僕の得意技はテクノロジーだったので、笑顔認識を使った製品を作って、新規事業を作ってみようというのが、emmyWash になりました。そこに至るまでは、例えば笑顔になると

おみくじが出てくるなど、様々な試行錯誤もありました。そして平野さんと話し合っただけで現在の笑顔になると除菌液がシュッと出るというものに辿り着きました。実はこの構想ができたのは、新型コロナウイルスが蔓延する前だったんですよ。」と末吉社長。



「社会装置事業」としての emmyWash の位置づけ

末吉社長は emmyWash を SDGs の目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」という形で作りたかったという。テクノロジープロバイダーであるクウジットとそれを社会実装していくマイネムと一緒に作る。また除菌液は株式会社タケックス・ラボから調達する。様々な協業によって emmyWash を作り、その事業利益を分配して一部をまたギブしていこうというスタイルだ。

一般社団法人エミーバンク協会設立、笑顔づくりと社会課題解決の両立を目指す

2021年4月1日に、感謝のお金「エミー」を循環させる仕組みを研究・啓発・普及する団体として一般社団法人エミーバンク協会を設立、末吉社長は代表理事に就任した。笑顔づくりと社会課題解決の両立を目指し、社会装置事業で得た利益を、感謝・恩送りのお金として、さらなる社会装置の普及のために循環させるサイクルを推進し、その普及・啓発活動に取り組んでいく。

次いで5月27日、Zoomによるエミーバンク協会設立記念イベント「エミーがつくる新しい社会価値」が開催された。

オープニングセッションとして、末吉社長、平野氏、本條陽子氏、江上広行氏が登壇し、「循環経済を実現させるエミーバンク協会設立の狙い」について語られた。そして emmyWash

50 台を全国の教育機関を対象に、無償提供するという表明があった。期間は1年間で、1施設につき1台貸与する。応募期間は、2021年5月27日から2021年7月31日までである。

エミーバンク協会設立記念イベント

「エミーがつくる新しい社会価値」



2021年5月27日 (木) 15:00 -17:00 Zoomオンラインセミナー

- 主催：一般社団法人エミーバンク協会/マイネム(株)
- 後援：健康経営会議実行委員会 (株)ルネサス内)



写真左から平野治氏(マイネム株式会社 代表取締役、NPO 法人健康経営研究会 副理事長)、保井俊之氏(理事兼最幸顧問)、本條陽子氏(理事、一般社団法人シネコカルチャー理事、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 ゼネラルマネージャー)、末吉隆彦氏(代表理事、マイネム株式会社 代表取締役、クウジツ株式会社 代表取締役)、江上広行氏(理事、株式会社 URUU 代表取締役)

さらに保井教授による基調講演「『温かい恩送りのおカネ』エミーを未来へ実装する金融」が行われた。保井教授はおカネと幸福に対する主な先行研究を紐解き、そのうえで地域を持続可能で幸福にする社会システムデザインとして、地域のウェルビーイングを向上させる「利他・贈与・共感・体験・大義のおカネ」が必要であると説いた。そして下図のようなエミーとゼニーの概念を提示した他、様々な研究成果を発表した。

Emmy="pay forward"のおカネと Zeny="pay me"のおカネ

通貨	<u>エミー (Emmy)</u>	<u>ゼニー (Zeny)</u>
行動原理	<u>感謝最大化</u>	<u>利潤最大化</u>
市場参加者の思考	感性	論理
ルール	感謝をつなぐ	資本効率の追求
舞台	地域のコミュニティ	グローバル金融市場
目的	協創価値	交換価値
取引例	地域社会で感謝の気持ち を持ちを贈る「恩返し」「恩送り」	株式売買のアルゴリズム取引などの 高速・高頻度取引

(出典: 保井ら 2017:5 図1 を保井が加筆)

emmyWash は自分のための笑顔づくりと除菌機能だけではなく、笑顔の数が貯金されて、その数に応じて教育機関などへ無償設置出来るという循環を作っていく。

人間の脳には、他者に利益や幸福をもたらすと「快」の感覚を得るシステム（報酬系）が備わっている。自分以外の利益を目的に加えると、この報酬系が刺激されて達成へのパワーとモチベーションが高まるのである。だからこそ利他と利己の接点をつくる装置・emmyWash は、人間の幸福感を醸成するための重要なファクターとなる。

これからも様々な協創によって、製品としても研究としても進化を続けていこう。今後のマイネムとエミーバンク協会の活動に大いに期待したい。

文 奥山 睦

参考資料：

マイネム株式会社 emmyWash

<https://www.emmywash.com/>

クウジット株式会社

<https://www.koozyt.com/>

一般社団法人エミーバンク協会

<https://www.emmybank.com/>

東京大学 i.school

<http://ischool.t.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学 知の構造化センター

<http://www.cks.u-tokyo.ac.jp/>

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>

叡啓大学

<https://www.eikei.ac.jp/>

特定非営利法人健康経営研究会

<http://kenkokeiei.jp/>

株式会社タケックス・ラボ

<https://www.takex-labo.com/>

末吉隆彦, 保井俊之, 飛鳥井正道, 江上広行, 本條陽子, 前野隆司(2018)「地域経済をめぐる二つの対立的貨幣観をテーマにした協創型ビジネスゲームにおける地域住民の内的活力の分析：主観的幸福 4 因子モデルによる定量評価を通じて」『地域活性研究』Vol. 9, pp. 174-183 (査読付研究ノート)

http://lab.sdm.keio.ac.jp/maeno/papers/2018_chiikikassei_yasui.pdf